今回は、当センターの活動フィールドの一つである野幌国有林における台風被害後の森林再生の様子について、10年間モニタリング調査を行ってきましたので、その概要を紹介いたします。

平成16年9月、台風18号が北海道に上陸し、野幌森林公園（約8割が国有林）においても、大規模な台風被害が発生し、早急な復旧・森林再生等の取組みが必要となりました。被害を受けた「野幌の森」の再生目標を「風に強く百年前の原始性が感じられる自然林」とし、

①天然林被害地は自然の推移に委ねる

②人工林被害地は人手をかけ、自然林を再生させる

③森林再生活動の実施にあたっては、市民参加を積極的に勧める

ことを主な内容とする「野幌森林再生プロジェクト」を策定し、具体の活動に取組んできています。

さらに、プロジェクトにおける森林再生を目に見える形にするため、自然環境の変化の把握を目的に、学識経験者からなる「野幌自然環境モニタリング検討会」を設置し、森林植生、菌類、歩行性甲虫、野生動物についてモニタリングを継続実施しています。

学識経験者による
現地での検討会

○森林植生調査

樹木の生長量や下層植生を調査しました。

被害地における天然更新木は在来種の種類や樹高が増し周辺森林への同化の道をたどっています。

また、植栽木は着実に伸張成長が増し枝張りが広がってきています。

○菌類調査

風倒等の攪乱による環境変化は、森林の分解者としての役割を担う菌類に大きく影響を与えます。木材腐朽菌の子実体（きのこ）を採取し分析を行いました。

被害地において、当初、出現頻度にバラつきが見られた種は、頻度が減少し安定傾向が見られ、自然林の林相に近づきつつあることがわかりましたが、種構成にはまだ差があります。

○歩行性甲虫調査

オサムシ等の歩行性甲虫は、環境の変化に最も敏感に反応する分類群の一つです。

ピットフォール（落とし穴）トラップによる捕獲調査を実施したところ、被害地において開放性の甲虫の割合が減少し、森林性の甲虫の割合が増加しています。

○野生動物調査

エゾシカの侵入やアライグマの増加は、森林生態系に及ぼす影響が懸念されていることから、自動撮影装置による調査を実施しています。

エゾシカの撮影頻度は今のところ低く、森林への影響はまだ少ないと思われますが、アライグマについては増加傾向が見られ、今後注意が必要です。

10年間の調査結果からは、順調な森林再生の様子がうかがえます。

今後も引き続きモニタリング調査を継続していくこととしていますが、これまでの成果については、本年12月にフォーラムを開催し、幅広く情報発信することとしています。さらに、これまでの調査データを公開できるように、データベース化を進めたいと考えています。

ボランティアによる下刈